

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270101371
法人名	社会福祉法人和幸園
事業所名	グループホーム千代の郷
所在地 (電話番号)	〒039-3504 青森県青森市矢田字下野尻48番4 (電話) 017-737-0810

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 12月 20日	評価確定日	平成 20年 2月 15日

【情報提供票より】(平成 19年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 3月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.4 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石木医院、浅虫温泉病院、ミナトヤ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然に囲まれた場所に立地しており、利用者は季節を感じながら過ごすことができる。ホームの運営にあたり、職員の細部への配慮が感じられ、地域との交流への必要性を重視されており、今後の取り組みに更に期待がされるホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は運営推進会議を開催予定の段階であったが今回は運営推進会議が定期的に開催されており、会議の内容も充実した内容になっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価を職員全員で取り組み、評価の結果について検討しサービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自己評価の内容を説明し、外部評価の結果も報告し委員から意見を得て、サービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時などに要望等がないか聞くようにしている。家族との話す機会を積極的に設けている。遠方の家族には電子メールも活用している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所を散歩したり、農作業を行っている近所の人と挨拶を交わし話す機会が持たれている。ホームが法人の敷地内にあり、近隣とは多少離れた場所に立地している為、気軽に立ち寄ってもらえることに難しさを感じているが、それでも可能な限り、地域の行事には参加して交流を持つように心がけている。また管理者が在宅介護支援センターが主催する介護予防教室にて講師を務め、地域住民に対し、認知症について理解を深めてもらえるよう努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、事業所独自の理念を作り、意識付けして取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時は声に出して確認し、意識し合いながら日々の実務に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所を散歩したり、農作業を行っている近所の人と挨拶を交わし話す機会が持たれている。ホームが法人の敷地内にあり、近隣とは多少離れた場所に立地している為、気軽に立ち寄ってもらえることに難しさを感じているが、それでも可能な限り、地域の行事には参加して交流を持つように心がけている。また管理者が在宅介護支援センターが主催する介護予防教室にて講師を務め、地域住民に対し、認知症について理解を深めてもらえるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価を職員全員で取り組み、評価の結果について検討しサービスの向上に努めている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自己評価の内容を説明し、外部評価の結果も報告し委員から意見を得て、サービスの向上に努めている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員会の機会と必要に応じて、情報交換や意見交換を行っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員が、権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会はありません制度の理解が万全とはなっていない。</p>		<p>今後は制度について学ぶ内部の勉強会の開催や外部の研修会に参加する機会を確保し、全職員が制度についての理解が深められることに期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会等で高齢者虐待防止法や尊厳について学び、理解を深め業務に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項を丁寧に説明し、事業所で出来ること出来ないことを明確に説明し理解を得られるよう努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時には近況報告を行い、運営推進会議ではスライド上映を行ったり、便りを発行して普段の暮らしぶりを報告している。遠方の家族には電子メールも活用している。金銭管理では面会時に小遣い帳にサインをもらっている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当者を決めているが、それに関わらず面会時などに要望等がないか聞くようにしている。運営推進会議で意見をもらったり、行事等にオンブズマンも参加してもらい、家族との話す機会を積極的に設けている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での異動が定期的にあるが、ホームでの職員の異動が利用者へのダメージとなる可能性があることを経営者に説明し、理解を求めるとともに、異動がある場合は、引継ぎがしっかりと行える期間を設け、ダメージを最小限になるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会では、同じ内容のものを2回開催するなどして、多くの職員が参加できるように工夫されており、ホーム内でも2ヶ月に1回の勉強会を開催している。また外部の研修についてもその内容につき自由に見られるようにし、周知を図っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが事務局となり、圏域のグループホーム職員で月に1回の勉強会を開催している。近隣の他グループホームと交流があり相互訪問を実施し質の向上に励んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に訪問し、本人や家族と面接しそこで得た情報を職員に伝え、本人の気持ちを考えながらホームに馴染めるようにまめに声をかけをし、他利用者と話す機会を作れるよう橋渡しをしたりして支援している。		
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と同じ時間を共有することで、教えてもらうことも多くあると感じながら、一緒に行くことの大切さ、お互い支えあう関係を意識して接している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、声を掛けたり表情を汲み取ったり本人の意向の把握に努めている。毎月のカンファレンスでも本人はどうかという視点で検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族から意見を聴きプランに反映させている。毎月1回カンファレンスを開き意見交換をしている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間は基本的に3ヶ月でその都度モニタリングを行っている。利用者の状態に合わせ臨機応変に見直しを行うように努めている。月1回でカンファレンスを行うため、その時等に意見交換し見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族からの相談要望に対しては、その都度できる範囲で支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談の上希望するかかりつけ医としている。基本的に家族による受診だが、不可能な場合は職員が代行したり、家族や医師と相談し往診での対応にしたりしている。利用契約時にその旨説明し同意を得ている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理を含め重度化した場合や急変時に対応できるように、家族を交えての話し合いを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議等で職員の意識向上を図りながら、普段さりげない言葉掛けや対応をし、プライバシーを損ねることのないよう配慮している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然に無理なく生活して頂くため、本人の気持ちを尊重して一人ひとりの希望に添った過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛り付け、片付けなど職員と一緒にっており、利用者にとって義務と感じて負担とならないように配慮している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>通常の入浴時間は午後となっているが、毎日入浴は出来る状況なので希望がある場合はその都度対応している。入浴を楽しめるように、声かけのタイミングや順番に配慮しながら支援を行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、状況を判断しお願いできそうな仕事は頼み、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の気分や希望に応じて、心身の活性化に繋がるよう散歩、買い物、ドライブなどに出かけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書等に身体拘束をしない旨を明文化していることはもとより、勉強会などで人権について学び共通認識を図っている。普段から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛せず、利用者が外へ出ようとしていたら、さりげなく声を掛けたり、一緒についていたり、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるよう努めている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。法人の他事業所からの応援の要請など取り決められている。また、地域住民の協力体制などについて話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを参考にして献立を作っている。食事や水分量を毎日チェック表に記録して職員で情報を共有している。利用者の状態に合わせおかずを刻んだり、水分摂取の少ない方には好みの飲み物を提供したり声かけしたりなどの援助を行っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症に対してはマニュアルを作成し、全職員で予防・対策に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの飾り付けで季節感が出るようにしたり、日差しをよしずで和らげるなど工夫している。台所からは調理に音や匂いが伝わり、五感が刺激されるように配慮されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使い慣れたものが持ち込まれている。家族の写真や賞状などを飾り、居心地良く生活できるように工夫されている。</p>		

 は、重点項目。